

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 川口市

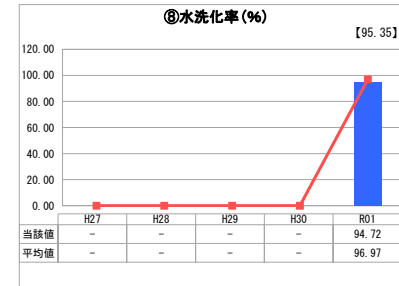
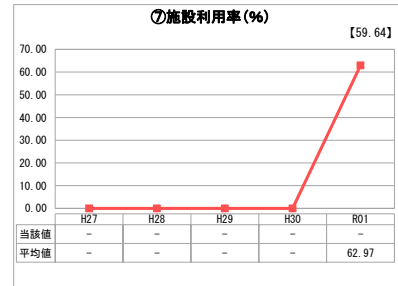
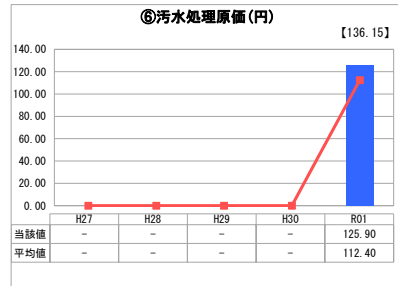
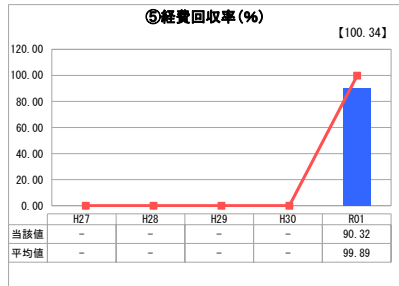
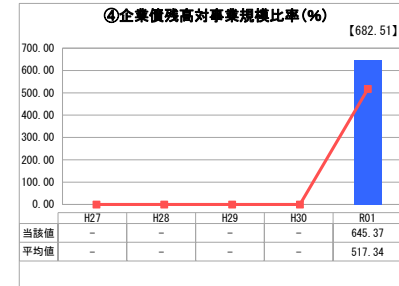
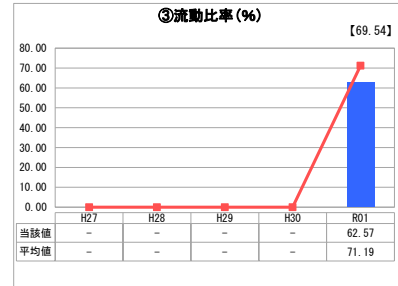
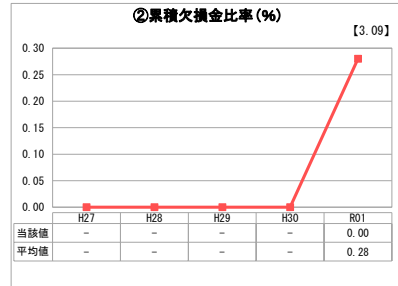
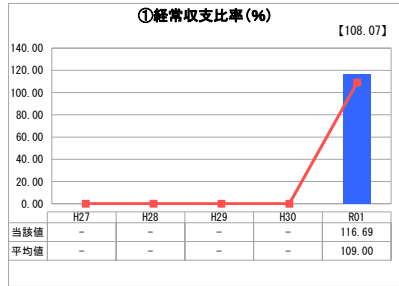
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	60.04	87.57	91.94	1,998

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
607,105	61.95	9,799.92
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
532,753	42.66	12,488.35

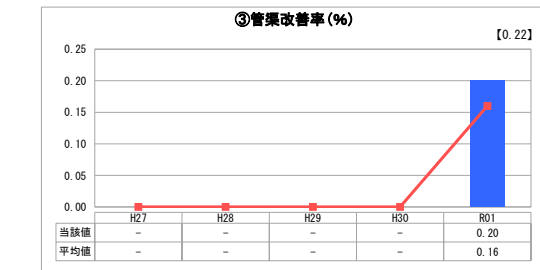
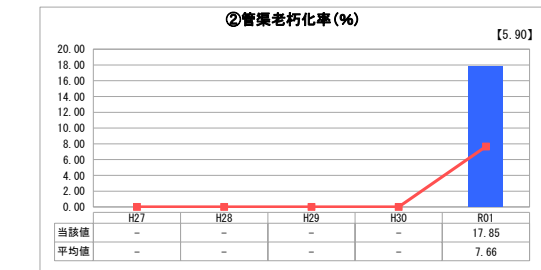
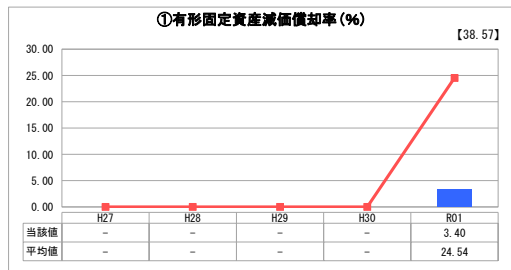
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を上回っており、全国・類似団体より高い水準にあります。これは長期前受金戻入（経常収益に計上）が大きいためと考えられます。

② 流動比率は100%を下回っており、全国・類似団体より低い水準になっています。流動負債の約80%は企業債ですが、今後も建設改良のための投資は増加する見込みであり、厳しい状況が続くものと見込まれます。

③ 企業債残高対事業規模比率は類似団体より高い水準にあります。今後も合理的な投資による適正な債務残高の維持や、使用料収入の確保に努める必要があります。

④ 経費回収率は、平成28年、平成30年の2段階にわたる使用料改定により改善が図られたものの、未だ100%を下回っています。今後も、経営の効率化による経費削減に努めるとともに、水洗化率の向上等により使用料収入の確保に努める必要があります。

⑤ 汚水処理原価は、類似団体より高い水準にあります。老朽化した管渠等の更新費用は今後ますます増大が見込まれることから、ストックマネジメント手法を用いたライフサイクルコストの低減化・最適化を図るとともに、維持管理についても効率的な施設管理及びコストの削減に取り組む必要があります。

⑥ 水洗化率は、全国・類似団体より低い水準にあります。水洗化率の向上は、資産の有効活用や使用料収入確保に繋がることから、戸別訪問などによる継続促進に努めていきます。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、全国・類似団体を大きく下回る水準となっています。本市は令和元年度から企業会計に移行しましたが、それ以前に減価償却された資産については減価償却累計額に計上されていないことが要因です。

② 管渠老朽化率は、全国・類似団体を大きく上回る水準となっています。本市では、事業者手から約80年が経過していることから、管渠総延長約1,258kmのうち、法定耐用年数を超える管渠が約225kmあるためです。

③ 管渠改善率は類似団体の水準を上回っているものの、管渠老朽化率が高いため、老朽化した管渠の計画的な更新が急務となっています。

### 全体総括

単年度の収支は黒字であり、累積欠損金も発生していませんが、使用料改定後も汚水処理にかかる経費を使用料収入で賄えていない状況が続いています。

今後においても、経費回収率などを指標として適正な下水道使用料について適宜検討を行うとともに、併せて水洗化率の向上への取組等により、財政基盤の強化を図ります。

また、施設の更新等に当たっては、ストックマネジメント手法の導入・活用により、施設のライフサイクルコストの縮減と費用の平準化を図ります。

以上のような取組に基づき、今後も安定的かつ継続的に下水道サービスを提供できるよう、事業運営に努めていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。